



## みんなの水泳……日々徒然

### Toronto 2015 Parapan American Games 見聞録 (トロント2015パラパンアメリカン大会)

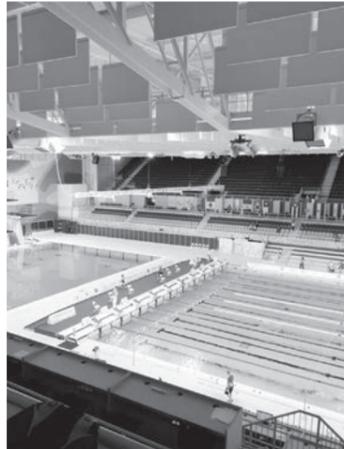
#### ～2020東京に向けて…徒然～

#### はじめに

前回は、グラスゴー(英国)で開催された2015 IPC Swimming 世界選手権グラスゴー大会について、ご紹介しました。

今回は、2015年8月8日～15日まで、トロント(カナダ)で開催されたトロント2015パラパンアメリカン大会について、見聞きしたこと感じたことをお伝えしたいと思います。

#### トロント2015パラパンアメリカン大会とは…



水泳会場



最終日、水泳会場は満員の観客でした

南北アメリカ大陸の国々が参加する4年に一度の総合大会です(アジアパラ大会のアメリカ大陸版、というところでしょうか)。

第1回パラパンアメリカン大会は、1999年にメキシコシティで、4競技において、18か国から約1000名の参加で開催されたそうです。

その後2003年にマルデルプラタ(アルゼンチン)、2007年のリオデジャネイロ(ブラジル)、2011年のグアタハラ(メキシコ)を経て、今回のトロント大会が5回目です。今回は、15競技において

28か国から約1600名が参加しました。

水泳では、ブラジル、アメリカ、メキシコ、地元カナダなどは40名前後の代表チームを送り込んでいましたが、リオパラの枠取りに重要な影響のあるIPC Swimming世界選手権(英国、グラスゴー)が、直前の7月に開催されたこともあり、今回は選手団によっては若手中心で構成しているところもあったようです。

#### 2015トロント大会でのクラス分け…

各国NPCが選手団を組んで参加する総合大会であることから、強豪国は選手選考までにクラスの確定を済ませているよう

でした。

一方で、ホンジュラスなど、初めて水泳競技に選手を送り込むという国もありました。Nステイタスでクラス分けを受ける選手のうち、自国内にクラス分けを(概ね)理解・判定する人がいない場合には、やはりエントリークラスは的外れなことが少なくない状況でした。つまり、クラス分け受検後にクラスが変更になることが多く、選手団にとっても、運営側にとっても、あまりいい影響を及ぼしません。

例えば、「1種目1NPCから3名まで参加できる」という決まりがありますが、選手団が大きい場合には、クラス変更の結果、同じクラスの同じ種目に選手が4名になってしまう → 誰が出場するのか再度検討しなければならない → 現地まで来て出場できない選手が出てしまう、といったことが起こるわけです。

国際クラス分けのしくみや判定基準をよく理解している人材が自国にいるということは、国内競技運営のためだけでなく、国際競技レベルの強化体制に非常に重要だと言えるでしょう。



PIとIIのクラスファイア

#### 放送ブース…日本の通告とはちょっと違う?

前回にもお伝えしましたが、日本ではプール内に響くアナウンスという、レースの告知、選手紹介、タイムの読み上げのイメージが強い「通告」です。しかし、前回紹介したグラスゴー世界選手権と同じように、今回もかなりの音量の音楽とともに「レースの実況」のようなアナウンスのスタイルでした。観客席や各国の選手・コーチにもインタビューするリポーターのような役割の人もいて、会場を盛り上げていました。スクリーンに映った観客に対して、アナウンサーが問いかけをしたりと、カメラとDJなどの音響、アナウンサーが一体となって運営されていました。



放送担当などのブース



レースは移動式の無人カメラで撮影されていました

#### 選手村で見かけたのは…



選手村ジムでは、選手や関係者などが朝からトレーニングをしていました

今回の選手村には、真新しいYMCAがあり、プールや走路付きジム、体育館が、朝5時から夜10時まで使えました。

プールは水温が26～27度と日本人の私には冷たかったのですが、全般的に快適な環境でした。時差ボケ解消にと、朝5時にジムに行ったときには、選手であろう人も含めて、すでに10人以上が各々活動していました。

また、セラピードッグや救助犬が、選手村を訪問しているのを見かけました(私が見たのは数回ですが、毎日来ていたのかもしれない)。私も数分だけでしたが、ナデナデさせてもらって、大変癒されました。



選手村のセラピードッグ



思わず「デカすぎ!」と声が出た救助犬

#### おおっ! こんなので移動…!!



セグウェイで移動する選手

これまでの他の大会でも見たことはありませんが、ある水泳選手(複数の関節に可動域制限のある障がい)が、移動手段として、セグウェイを使用していました。選手村でも、プールサイドでも、食堂でも、セグウェイでスイスイと移動していました。

#### 渋滞のときは、白バイの先導で…

大都市の宿命か、夏休みということもあるのか、週末や通勤の時間帯には高速道路の渋滞に見舞われました。渋滞がひどくなると、選手村から競技会場へ向かうバス2～3台につき、4～6台の白バイが配置され、白バイの誘導で、高速道路を走りまわりました。道路の一番左の車線は大会関係車両専用になっていますが、そこに他の一般車が入ると白バイがさーっと行って移動させたり、車線変更では、残りの車線のすべての車の流れを止めて、そこをバスが悠然と車線変更するのです。他の大会でも渋滞にあうことはありましたが、こんな経験は初めてのことでした。開催都市のやる気、みたいなものを感じました。

#### 閉会式は街のど真ん中で…!!

閉会式は、街のど真ん中にある、トロント市庁舎前広場で行われました。選手や関係者の座席のあるエリアの外に一般の観客も家族連れ等で多く訪れており、セレモニーを楽しんでいました。かなりの音量でダンスや音楽のライブ演奏があり、選手も競技役員も盛り上がるなか、最後には盛大な花火も打ち上げられました。街の真ん中ですから、周囲には大きなホテルもいくつかありましたが、そんなのおかまいなし、という感じでした。



閉会式終了後は大会グッズのショップが大人気で、10台以上のレジが稼働していましたが、それでも長蛇の列でした。

トロントブルージェイズの本拠地Roger Centre前にToronto 2015大会のモニュメントがありました。この横にトロントのランドマークともいえるCNタワーがあり、多くの市民や観光客であふれていました。



閉会式の準備中

#### IPC公認大会をもっと国内で!

ここ数年、日本国内の大会では、ジャパンパラ競技大会、3月の静岡(富士)での記録会が主なIPC公認大会となっていました。今年度は、この2つ以外にも、IPC公認大会を増やす取り組みがなされて、6月の神戸市市民選手権水泳競技大会(指定強化選手のみ対象)と、11月の日本身体障がい者水泳選手権の2つが新たにIPC公認大会となっています。

ただし、世界の強豪国に比べると、まだまだ少ないのが現状です。リオの枠取りに向けて、2020東京に向けて、このあたりも国内水泳界全体でチャレンジしていくべき課題のひとつと言えるでしょう。